

公益社団法人日本クラフトデザイン協会

事業評価委員会 議事録（学術・文化の振興のための活動）

日 時：平成28年3月19日（土） 14:00～17:00

※第2回定例理事会の議題として審議された

場 所：日本クラフトデザイン協会事務局 （東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-15-408）

出席者：（理事）岡本昌子 磯谷晴弘 水野誠子 相川繁隆 石原実 海野えり子 菅野靖

関根正文 西川雅典 采罌真澄

（監事）露木清勝

●事業の報告について

- ・担当理事から事業について報告がなされた。

第55回日本クラフト展 暮らしが選ぶクラフト

会期：平成28年1月8日（金）～17日（日） 10日間

11時～19時（最終日16時）

会場：東京ミッドタウン・デザインハブ

（東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F）

賞：経済産業大臣賞・日本クラフト大賞1点・優秀賞2点・招待審査員賞2点

U35賞1点・学生賞1点・奨励賞7点

併催：受賞者インタビュー 平成28年1月8日

素材別作品解説 会期中6回

応募数：518人 1478点

入選・展示数：294人 820点

入場者数：9076人（10日間）

以下、各項目の担当理事からの報告と評価委員の意見等

●実施会場について

- ・東京ミッドタウン・デザインハブで3回目の開催となった。会場移転当初よりは定着感が増し、毎年新春のイベントとして定着しつつある。また、デザインハブで開催されるイベントの中では例年1・2位を争う入場者数であることも会場担当者から伝えられている。

●実施体制について

- ・実行委員会を組織し準備等を行った。事業規模が大きく委員以外の会員の協力も多数得ての実施であった。地方在住会員も多かったがメール等で情報交換を行った。～協会全体が一丸となって取り組めたことは大変評価できる。今後もテーマ設定等の段階から積極的に意見収集等を行うよう努めてほしい

●応募状況について

- ・前年度より僅かに増加したものの、目標には達しなかった
- ・公募展の魅力や意義を分かりやすく伝えていく必要がある
また、応募要項等送付先の再検証をすべきである。

●展示について

- ・コストを出来るだけ抑え、質を保つ工夫を行った。可能な限り使い捨ての部材は無くし、リユース可能な什器を利用した。受賞作品を会場奥に展示することで入場者を会場奥まで誘導する狙いは効果的であった。

●会期中イベント

- ・受賞者インタビューや会員による素材別解説など、本展や作品について理解を深めてもらうイベントの他、「お花」「お茶」を楽しむためのセミナー・ワークショップも開催した。また、昨年度好評であったプライースプリット技法のワークショップ等、会期中、クラフトを多角的に感じて楽しむことができるよう試みた。
参加者の反響はとても良かった。
今後も、作品展を見るだけでなく、クラフト作品の使い心地を肌で感じてもらえるような、また素材の魅力を感じてもらえるようなイベントに期待する。

●事業目的の達成について

応募者数、入場者数共に目標の数字への達成は果たせなかったが、若い世代の応募者の増加と質の向上が大きなプラスの要素である。
また、数字だけでなく、具体的な指標を設けた方が良い。ただし、クラフトの考え方は幅広く、時代とともに変化するもの、しないもの等様々であり、その設定には更に議論を重ねる必要がある。

今回は会期直前にミッドタウンの会報誌にチラシ封入が出来、約2万件に情報周知した。その効果もあり、入場者数は昨年度より多くなった。今後もこうした協力を要望して事業を根付かせていくことが望ましい。

自転車テーマにした会員によるリレー展示が今年からスタートした。モノ作りという点での共通性、また自転車のある暮らしの提案等、今後も継続しながら展開していく。数年後、展示内容を振り返り更に次のステップを踏めるように、次年度も準備が必要である。

平成27年度は昨年度開催の日本クラフト展の派生事業として磐田市で展覧会を開催した。規模の大きなクラフトデザインの展示は地元から大きな反響があった。また、54回日本クラフト展大賞作品の作家が奄美大島所在であることが機縁になり、奄美を中心に活動する作家グループとの交流展も開催された。本事業が起点となって、今後も様々な方法でクラフトの魅力を広め伝えることに大きく期待する。

以上